

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>入居者様の個々を尊重し、地域との交流を大切にした基本理念をかかげている。</p>	○	地域との交流を図る中で、今後は地域の一人としての内容をおこなった理念に移行していきたいと考えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>毎朝の申し送り時に理念を全員で唱和し、日常的な業務の中で理念に応じたものであるか確認及び指導している。</p>	○	カンファレンス時に理念を掘り下げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っていききたいと考えている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>地域向けの広報紙を発行し、町の地区自治会の班ごとに回覧してもらっている。また、運営推進会議などで地域交流が図れるよう説明している。家族にはホーム便りや家族会などで説明している。</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>日常的に散歩や薬局などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。</p>	○	隣近所の人達が立ち寄り、遊びに来たり、おすそ分けをしたりする間柄になりたいと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>近くの幼稚園の運動会に参加したり、来所により歌や踊りを披露してもらっている。また、老人クラブの方に野菜作りのお手伝いをしてもらったり、当ホーム主催の秋祭りには、婦人会の方にも協力してもらった。</p>	○	今後、小中学校との交流や青年会への秋祭りのお手伝いを依頼したい。地域の行事に参加する機会を増やしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町の介護事業所が集まる会合に参加し、高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合っている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。		
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、介護の質の向上に努めている。外部評価の結果は、全体カンファレンスで報告し、改善に向けて検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねる毎に参加メンバーを増やしている。ヒヤリハット・アクシデント・事故報告・ボランティア・入退居の状況については毎回意見交換を行っている。外部評価への取り組みおよび夏祭りの運営などについては、その時期に応じて報告や話し合いを行い、そこでの意見を活かすようにしている。	○	参加メンバーの人々が運営推進会議の意義や役割等を理解して、積極的に参加してもらえるよう働きかけていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業を行っていく上で生じる運営などの課題について、市町村担当者と協議しながら行っている。協働関係を継続できるよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。必要な人には、説明・アドバイスをしながら支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ全体のカンファレンスを開き勉強し、虐待が見過ごされることがないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。当ホームでできること、できないこと、起こりうるリスクについては、特に重視して説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを案ずる努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。その時々利用者の不安・意見などは、全ユニットの問題として考え、話し合いを行い、ケアに活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月プレスマン便りで暮らしぶりやエピソードなどを報告する他に、担当職員から手紙を送るようにしている。家族が来訪時には利用者の状況について話し合っている。金銭については、家族に使途の承認のため金銭出納帳にサインをもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を置くと共に家族会、運営推進会議などで意見・要望を出してもらえる雰囲気づくりに心掛けている。そこでの意見などを全体カンファレンスで話し合い反映させるようにしている。苦情に関しては、併設病院の検討会でも協議している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、個人面談を行い、意見を聞くようにしている。月に1回行っている全体カンファレンスでも意見・要望を聞き、日頃からも問いかけたり、聞き出したりするようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床時や就寝時など、利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。加えて、管理者とパートの看護師は状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れていない。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前回の指摘項目であり、法人内の異動を最小限にしてもらった。利用者・家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動などがやむを得ない場合も、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回開催される法人内の研修には、1ユニット1名ずつ参加するようにしている。グループホーム協議会開催の研修会には、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。それらの研修報告は毎月の全体カンファレンスで発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会からの研修会や相互評価に積極的に参加してもらい、当ホーム以外の人材の意見や経験をケアに活かすようにしている。また、地区のケアマネジャーが参加する地域ケア会議に出席し、交換研修や情報交換を行ない質の向上に励んでいる。	○	他グループホームとの交流を深め、他事業所の設備・運営などをさらに勉強していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や個人面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。勤務時間内にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、職員の業務や悩みを把握している。また、職員の資格取得に向けた支援を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活状態を把握するよう努め、本人の思いや不安を理解しようとしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで、落ち着いてもらい、次の段階の相談につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	やむを得ず、すぐ利用になった場合には、家族やそれまで関わっていた関係者に面会にきていただき、利用者に関心を持ってもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が‘利用者は人生の先輩である’という考えを共有し、家事・畑仕事などを協働しながら、和やかに生活できるように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の暮らしの出来事や様子をきめ細かく伝え、どのように支援していけばよいか、共に考えていけるような関係づくりを心掛けている。	○	疎遠な家族にもサービス担当者会議には出席をしてもらい、利用者への支援についての話し合いの場を持つよう努めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	連絡が密にとれている家族はもとより、疎遠な家族にも利用者の日々の暮らしぶりを便りでも知らせたり、行事にも誘ったりして、より良い関係づくりに努めている。	○	毎月、担当職員が家族に、入居者の近況についての手紙を送らせてもらっている。その月の行事に参加した時の写真も手紙と一緒に添えている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆の墓参りを続けている利用者、電話で友人と近況を報告しあう利用者があり、利用者それぞれの人間関係を把握して、その関係が途切れないよう支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の仲の良し悪しに配慮し、孤立する利用者がいないよう調整・支援している。常に注意深く観察・見守りしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用時に培われた関係を大切にし、病状の悪化などで病院へ転院となり、利用終了となった後も家族の不安や希望に耳を傾け、再サービスの利用の相談なども受け入れるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との信頼関係を築き、日々のコミュニケーションの中で、一人ひとりの思いや希望を言葉や表情などから把握するよう努めている。家族からの情報も大切にしている。	○	センター方式を活用し、利用者自身の言葉や表情から、利用者の自分らしさを見出すよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーへの配慮を忘れずに、利用時に本人や家族から情報収集している。利用中も折に触れ、少しずつ把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを排泄チェック表や心理面など多方面から総合的に把握するよう努めている。毎日の関わりの中で職員全員で、利用者のできることを発見し、それを援助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。センター方式により、職員全員で気づきやアイデアを出し合い、チームでの介護計画の作成に取り組んでいる。	○	利用者、家族、関係者で話し合いの場を持ち、それぞれの気づき・意見・要望を反映した介護計画の作成を行っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化や状況を把握し、家族の要望も取り入れて、期間が終了する前に見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・排泄状況など利用者の様子や言葉を記録し、全職員が常に確認している。日々の記録を基に作成したケアプランを実践し、その結果や気づきを基に介護計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームに看護職員を3名配置している。また、病院の併設施設でもあり医療連携体制は充実している。利用者の受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続を行っている。	○	併設に病院があるため、重度化した場合や終末期は入院をしてもらっている。今後は、本人・家族の意向に基づきホーム内での看取りに取り組んでいきたいと考えている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議に出席してもらい意見交換するようにしている。ボランティアに関しては、当ホームの立地条件の悪さから外出が難しい状況であったが、平成20年1月より定期的に来てくれる団体と行事などの時に依頼する団体が見つかり支援の幅が広がった。	○	今後、運営推進会議に警察・消防および文化・教育機関などに参加してもらえよう働きかけていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて高齢者支援センターのケアマネジャーおよび地域包括支援センターの保健師のアドバイスを受けている。また、本人の希望や体調に応じて訪問理容サービスや歯科往診を利用してもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加してもらい、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの顧問医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し通院介助を行ったり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自分らしさを尊重し、さりげない対応や声掛けをするよう常に心掛けている。記録などによる個人情報の漏洩防止がないよう注意深く取り組んでいる。	○ 全職員が個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図れているか常に確認し合うよう取り組んでいる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自身が選択できる場面づくりとして、意志表示が困難な方にも飲み物のメニュー表を作るなどして選んでもらえるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れの中で、利用者一人ひとりの体調をみながら、それぞれのペースに合った過ごし方ができるよう支援している。	○ 買い物や散歩など、利用者の望みを知ることを大切に、業務調整、工夫をして柔軟に対応している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣は本人の希望を踏まえて決めており、支援の必要な時に介助している。本人が美容室を決めていないが、外部業者に入ってもらい、髪型など、本人の好みにできるよう援助している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と調理、盛り付け、片付けなどを共に行い、食事も利用者、職員が同じ物を一緒に食べて楽しい雰囲気での食事を心掛けている。	○ 準備や片付けは、利用者一人ひとりが自分ができる範囲内で行なえるよう、声掛け見守りをしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間には、メニュー表を作り、その中から好きな物を選んでもらっている。手作りおやつメニューを決める時には、利用者の意見も取り入れるなどの配慮をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のリズムやサインを把握するため、チェック表を作り使用することで、トイレ誘導が声掛けをしている。トイレ誘導を嫌がられる方には、無理強いわせず、時間をおいて再度声掛けするようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望を考慮し確認したうえで、入ってもらい無理強いはいしない。入浴に対して不安を訴える利用者には、入浴への不安や恐怖心がやわらぐような声掛けや対応の工夫をしている。	○	菖蒲湯、ハーブ湯など温泉気分を楽しんでもらえる雰囲気づくりをしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを崩さないため、日中の活動状態にも気を配っている。不眠の利用者に対しては、家族や医師と相談し、薬などで調整を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者自らが「やりたい」と思ってもらえるような支援を心掛けている。利用者一人ひとりの生活歴を把握し、それぞれに合った楽しみを見つけられるよう援助している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い、お金を預かっている。買い物へ行った時には、本人が好きな物を選んで、自分で支払いできるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や体調を見ながら、ドライブや買い物などに出掛けている。遠くへの外出ができない時には、近所を散歩したり、玄関先で日光浴・外気浴をしている。	○	車椅子の利用者が短時間でも外出できる機会をつくっている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族会で家族の外出への意見や希望を聞き、無理のない範囲での外出と家族の参加を呼びかけている。	○	行事で利用者がそろって外出時は、利用者それぞれの家族へお知らせし、参加の呼びかけをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話したいと希望した時には、いつでもかけられるよう支援している。毎年、利用者の希望に応じて、年賀状を出せるよう支援できている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来られるような雰囲気づくりを心掛けている。訪問された方にゆっくり気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの人権を守ることが介護の基本であるという認識を全職員が持つようにしている。また、日々のケアを通して、身体拘束を行わないケアを目指している。	○	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を定期的に実施していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりのその日の状態を職員が把握することにより、声掛け、見守りし、日中は鍵をかけず自由に暮らしを支援している。	○	地域の人々にも理解を求め、声掛けや見守り、連絡をしてもらえるような関係をつくっていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールに職員がいて、見守っている。夜間は頻回に利用者の様子を確認し、すぐに対応できるよう配慮している。	○	夜間、転倒の危険がある利用者は、本人・家族の了承を得て、ベッド横の床にコールを設置し、すぐに対応できるようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべての物品を片付けたり、鍵をかけたりせず、利用者の状況により検討している。1日2回の申し送り時、物品が紛失していないかどうかのチェックを必ず行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット事例を記録し、職員の共有認識を図っている。事故発生時、速やかに家族への説明・報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が年に一度、応急手当の勉強会に参加し、知識の習得をするようにしている。緊急時の対応マニュアルを作成し周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルの作成をし、利用者と共に避難訓練を年2回昼と夜間想定で実施している。	○	地域の協力をえられるよう、運営推進会議での呼びかけを行っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては、入居時に家族に説明をしている。利用者の状況変化により転倒などのリスクが発生した時には、その都度、家族への説明を行い、対応策を考えて事故防止に努めている。	○	利用者の状況や変化により、家族会やサービス会議など話し合いの場をつくり、理解を得られるように取り組んでいきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者一人ひとり普段の状況を把握し、細かい表情や体調の変化も見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。気付いた際には、看護師に報告し、職員間で情報を共有し対応している。	○	利用者に体調の変化があった場合、家族へ早急に連絡するよう徹底している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者一人ひとりの薬の内容(目的・用法・用量・副作用)を把握できるよう、薬剤説明書を個人記録と共に整理しており、常に確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	下剤の使用については、利用者の状態に合わせて使用量、使用頻度を調整している。便秘時は、水分量に気を配ったり、腹部のマッサージを行い、自然排泄ができるよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、利用者一人ひとりの力に応じて、見守りや介助を行っている。就寝前は、義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録し、全職員が把握するよう情報を共有し、支援している。	○	体調の悪化により、水分や栄養摂取が困難な場合、主治医の指示を仰ぎ、速やかな支援を行なっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節・地域の感染症発生状況の情報収集を行い、早期発見・早期対応に努めている。利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオル使用、手洗い励行を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、ふきん、調理器具などは、漂白し、清潔を心掛けている。冷凍庫、冷蔵庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が外気浴、日光浴時にひと息つけるベンチを置き、玄関には観葉植物を植え、プランターには季節の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が、日中過ごすホールの飾りつけは、季節に合ったものを利用者と一緒になって作ったり飾ったりしている。台所では、味噌汁の匂い、茶碗を洗う音など家庭的な雰囲気を感じられるよう工夫している。	○	日中、利用者が過ごすホールには、温度計を設置し定期的に確認することで、居心地よく過ごせるようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見たいテレビ番組を寝転がって見たり、洗濯物を座ってたたんだり、和室はくつりげる居心地の良いスペースとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自身でつくってカレンダーやお気に入りの人形などを飾り、その人らしい居心地のよい居室づくりに取り組んでいる。	○	本人の持ち物が少ない場合も、本人の希望を確認して、居心地の良い空間となるよう取り組んでいる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の様子・状態を常に観察し、冷暖房の調節を行っている。定期的に換気をしており、においや空気のよどみがないよう配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、車椅子や歩行器等を取り入れ、活動性の維持を図っている。常に利用者にとって危険がないか確認を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の状態を把握し、その時の状況に合わせて、環境整備に取り組んでいる。	○	トイレや浴室に見やすい大きさや色彩の文字で表示をするなど工夫をしている。利用者を常に見守り、わからないことは、さりげなく援助し、混乱や失敗なく安心して暮らせるように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに季節の花を植えたり、畑に野菜を植え、水やりや収穫を楽しめるような環境をつくっている。玄関先のベンチでは、利用者が日向ぼっこをしたり、おしゃべりして過ごせるようにしている。	○	午前中の日光浴は、良眠につながるため取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、センター方式を取り入れ、利用者様の望む暮らし、利用者様の自分らしさを尊重した援助を心掛けています。現在、地域との関わりを深めていくということを目指し、ホームでの行事に地域の人々も参加していただき、こちらも地域の行事に参加していくことにより交流を深めています。また、家族との信頼関係づくりも大切にしており、毎月、担当スタッフより家族へ利用者様の近況を知らせる手紙を送ったり、利用者様の小さな体調の変化もすぐに報告するなどよい関係づくりに努めています。職員全員が勉強会や研修にも積極的に参加し、そこで学んでよいと思ったことは、カンファレンスで話し合い、実践に向けて取り組んでいます。